

第4回 日本在宅看護学会学術集会
シンポジウムⅠ「在宅看護学実習はどうあるべきか」

本学における在宅看護学実習の 現状と課題 そして今後に向けた取り組み



首都大学東京 清水準一
jshimizu@tmu.ac.jp
http://www.j-shimizu.net/
(この資料は後日公開します)

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY
首都大学東京

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

私たちが担当する在宅の科目

- 学部 准教授2名、助教1名
 - 家族発達看護学 2年後期
 - 在宅看護学 3年前期
 - 在宅看護学演習 3年前期 医学書院の「在宅看護論」を教科書指定
 - 臨地看護学実践実習(在宅)→今日のテーマ
 - 総合臨地看護学実習(在宅) 4年 選択12名
- 大学院(上記メンバーに教授1名が加わる)
 - 在宅看護CNSコース(26単位)の学外演習、実習
課題研究の指導(補助)も担当

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

本学での実習の状況

- 1年次は別キャンパス、2年次に基礎実習
- 3年次後期に各論実習が開始

	10/13~	10/27~	11/10~	11/24~	12/8~	1/5~	1/19~
1G	母性	精神	高齢者	急性期	在宅	小児	
2G	高齢者	母性	精神	在宅	急性期		小児
3G	小児	高齢者	母性	精神		急性期	在宅
4G		小児	高齢者	母性	精神	在宅	急性期
5G	急性期		小児	高齢者	母性	精神	在宅
6G	高齢者	急性期		小児	在宅	母性	精神
7G	精神	高齢者	急性期		小児	在宅	母性

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

在宅看護学実習の目標

1. 在宅療養者と療養環境の特徴を理解し、行動することができる
2. 実習する訪問看護提供施設・退院支援部門について学ぶ
3. 在宅看護の一連のプロセスについて学ぶ
4. 在宅療養者や在宅等に移行する療養者に対する看護過程の展開を学ぶ
5. 在宅療養者に必要な社会資源の活用やチーム活動について学ぶ

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

実習までの導入

3年前期 なるべくアクティブラーニングで

- ・在宅看護学・・・在宅の特徴、制度や看護過程
 - ・介護保険学習プリント
- ・同演習・・・現場の声、対象別各論、実技演習
 - 実技演習では、ALS患者とのコミュニケーション支援、HOT、HPN、呼吸ケア、吸引、排便、浣腸等
 - 訪問看護のロールプレイ

夏休み～

- ・事前課題1 実習で起こりそうな4事例の対応
- ・事例課題2 実習施設・法人、地域の学習
- ・医療処置復習プリント

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

在宅看護学実習の方法

■実習方法は2通り

月	火	水	木	金	月	火	水	木	金
オリ	訪問看護ステーション 8日間								合同 cf

月	火	水	木	金	月	火	水	木	金
オリ	訪問看護ステーション 4日間				退院支援部門 4日間				合同 cf

- オリでは、実習目標の確認や技術チェック
- 毎週1日を学内での面接や整理に

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

在宅看護学実習の内容

- 訪問看護ステーション
 - 訪問看護師との同行訪問 3~4件 対象は多様
 - 1ケースを決め 看護過程を展開 2wの場合実施・評価まで
 - ✓ ケースに没頭しがちな学生には要注意!!
 - 退院前カンファ、担当者会議などに参加
- 退院支援部門
 - 退院支援看護師の相談、病棟ラウンド等への同行
 - 1ケースを決め 情報収集→支援の方向性まで検討
 - 退院前カンファ、病棟カンファなどに参加
- 実習記録はできるだけ簡素化

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

教育上の課題

- 教員(含非常勤)が各施設を 1日1回は巡回指導し、施設への適応状況や学習の進行状況をチェック
- 教員の目が届きにくいので、専用携帯・メール等への連絡の促し、指示内容や関連資料はすべて配布して自己確認を可能に
- 在宅看護学実習としての目標は、ほとんどの学生が達成できている
- 他の実習より重症度、寝たきり度が重篤なケースが多く、学生が戸惑う場合が散見

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

運営上の課題

- 今年度の実習施設
 - 退院支援が5病院、訪問看護が15事業所
 - 休廃止、サテライト化による 実習施設探しに奔走
 - 同時に最大12施設25人の学生が分散して実習
- 非常勤講師の確保が困難
 - 指導マニュアル作成で質の保証
- 安全面
 - 体調管理と感染対策
 - 自転車での交通事故

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

今後に向けて

- 時代に合わせた在宅看護学実習としての目標の見直し
 - 現状は訪問看護を含め 在宅看護を広く学ぶことも意識した内容(退院支援・外来・ケアマネ等)
 - 訪問看護の現場を意識した思考と技術を組み合わせた授業・実習を行っているつもりだが、よく学んでいる者ほど訪問看護を容易には捉えていない →すぐに訪問看護にはつながらない
- 在宅看護の教育に関するデータが少ないので、他大学とも協力して評価研究が必要

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

実習の時期や内容

- 基礎実習をより生活の場での意見
 - 複合型サービスなどに期待するが、都内には数か所のみ
 - 退院支援を他の実習に移せば、訪問看護をより深く学べる
 - ただし、学生の反応の一例として「成人実習では指摘されてもよくわからなかったが、在宅ではよくわかった」
- 学生のレディネス、指導教員の指導力の両面の検討が必要

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

在宅看護「論」から「学」へ？

- 在宅看護学という学問的基盤が整理され、看護界で認知されることがもちろん必要
- 実習についても質・量の充実と、他の領域へのコミットを増やしていく
 - 何が在宅看護学の範疇であって、何は違うのかを明確にする
 - 実践と学問としての 在宅看護学が反映された内容 & 看護師養成カリキュラムとして 在宅だから学びやすい内容を峻別する必要性